

自然・環境と人権擁護の先駆者 田中正造

佐野市小中町生まれの正造は、衆議院議員として足尾銅山鉱毒問題に取組み、渡良瀬川沿岸の住民を救うため議員の職を辞して明治天皇に決死の直訴を行ないました。人と自然との共生を願う正造の精神は、現代の人々へと受け継がれています。

① 田中正造旧宅

佐野市小中町 975
☎ 0283-24-5130

正造の生家は県道に面して表門、隠居所、便所が、裏には母屋、土蔵などが残されています。当時、隠居所は家族が小商いをして過ごしていた場所です。

休館日 月・水・金曜日
入館料 有料



県指定史跡
MAP D-7

③ 浄蓮寺(田中家累代の墓所)

佐野市小中町 998
☎ 0283-24-2843

田中家の菩提寺で、田中家累代のお墓があります。正造の師・赤尾小四郎家のお墓もあります。



MAP D-7

⑤ 佐野市郷土博物館

佐野市大橋町 2047
☎ 0283-22-5111

休館日 月曜日(祝日の場合は開館、翌日は休館)祝日の翌日(祝日の翌日が土・日曜日の場合は開館)年末年始時間 9:00~17:00
(企画展開催中のみ有料)



MAP 佐野駅周辺図 G-11

⑦ 「田中正造終焉の家」庭田家

佐野市下羽田町 19-2
※見学は不可

正造翁が大正2年8月2日、河川調査から谷中村へ帰る途中、支援者だった庭田清四郎宅で病に倒れました。妻カツや木下尚江をはじめ、大勢から献身的な介抱を受けましたが、同年9月4日、同家の8畳間で亡くなりました。



市指定史跡

② 田中正造誕生地墓所

佐野市小中町 963-1

正造分骨地の一つで、正造と共にカツ夫人も合祀されています。大正5年(1916年)に建立された墓石の題字「義人田中正造君碑」は、友人・島田三郎が書き、正造の篆笠姿は小中出身の歴史画家・小堀鞆音によるものです。



市指定史跡
MAP D-7

④ 地蔵堂

佐野市堀米町 2340

菊川町中公民館 南側
明治2年(1869年)、正造は六角家騒動で入獄し、許されても帰村できませんでした。隣村のこの地蔵堂に居住し、手習い塾を開きました。



MAP 佐野駅周辺図 G-9

⑥ 田中正造墓所(佐野厄よけ大師境内)

市指定史跡
MAP 佐野駅周辺図 H-11

佐野市金井上町 2233

☎ 0283-22-5229

分骨地の一つで、墓石は正造が愛した自然石で渡良瀬川流域産のものが使われています。自由民権運動時に安蘇結合社(後の中節社)が置かれ、正造は会長に選出されました。大正2年10月12日に正造の本葬が行われました。直訴に感銘を受けた石川啄木が詠んだ歌碑があります。



ちょっと足をのばして・・・渡良瀬川周辺

A 雲龍寺

群馬県館林市下早川田町1896
☎ 0276-73-4163

足尾銅山鉱業停止請願事務所が置かれ、被害民の闘争本部となりました。大正2年9月6日には正造の仮葬が行われ、没後20年後の昭和8年に渡良瀬川沿岸の住民の浄財により救現堂が建てられました。「救現」は正造が没する13日前に述べた「現在を救い給え」という言葉に由来します。



田中正造の生涯

— 命をかけた戦い —

略歴 (年齢は数え年)

天保12年(1841)	下野国安蘇郡小中村(現・佐野市小中町) 11月3日誕生
明治13年(1880)	40歳 栃木県会議員に当選
明治23年(1890)	50歳 第1回衆議院議員選挙当選
明治29年(1896)	56歳 渡良瀬川大洪水 鉱毒水被害民と足尾銅山鉱業停止運動開始
明治33年(1900)	60歳 渡良瀬川両岸被害民が大舉請願中、川俣事件起き
明治34年(1901)	61歳 足尾鉱毒問題を天皇に直訴
明治37年(1904)	64歳 遊水池反対運動に励む
大正2年(1913)	73歳 河川調査からの帰途、病に倒れ、9月4日死去

